

動画像処理シミュレータ

1974 年（昭和 49）、大規模画像メモリを備え、動画像に対して柔軟な入出力が可能な動画像処理シミュレータを開発した。このシミュレータは、標本化周波数や大きさ、カラー情報の表現形式などが異なる静止画像、動画像のいずれも処理でき、符号化シミュレーションなどを幅広く実行できるよう汎用性を持たせている。ビデオレートで入出力される動画像データを格納するための手段としては、半導体メモリとアナログディスクを組み合わせることで大規模画像メモリを構成した。また、多様な動画像の入出力などを能率良く処理するために、ユーザーの操作性を考慮した対話形式のシステムソフトウェアを開発した。

出典：KDD 社史